

# 第一章 観光マーケティング調査

---

## 1. 台東区の観光

近年、観光における国際化は加速し、平成 20 年 10 月、国土交通省は我が国の「観光立国」の推進体制を強化するために外局に観光庁を設立した。現在観光庁では「観光立国基本計画」に沿って「アクションプラン」を策定し具体的な施策を実施している。

一方、台東区の観光を取り巻く環境は、平成 23 年度の開業を目指す隅田区押上・業平橋地区の東京スカイツリーのシャワー効果を期待できる。さらに、浅草寺風神雷神門前の浅草文化観光センターも平成 23 年度のリニューアルを予定している。こうした背景の中、近隣諸国からの外国人来訪者は益々増加し、観光客誘致の都市間競争をより激化させている。同時に日本人来訪者のニーズはさらに多様性を増しており、効果的な観光振興を図るには、これら観光需要を的確に捉えることが求められている。

台東区では国際観光都市づくり、誘客促進及び今後の観光ルート開発に関する施策の展開に資することを目的に、平成 16 年度以降、2 年毎に観光統計調査を実施してきた。

今回は「観光まちづくり」「観光調査法」など、文化ツーリズム分野の都市環境科学環・観光科学域を大学院に新設した首都大学東京大学院の都市環境科学研究科、秋山哲男教授、吉田樹准教授と多くの研究生に加えて、ライフスタイルに着目した観光マーケティングに研究実績を持つ東洋大学国際地区学部国際観光学科の森下昌美准教授、及び同校学生の協力で官学共同で「観光マーケティング調査」を実施した。

## 2. 過去の調査概要

### 2-1. 平成 16 年度・18 年度の調査内容

#### (1) 観光客の行動把握

来訪者のアンケート調査

宿泊者のアンケート調査

#### (2) 観光施策等利用実態の把握

区内の主要観光施設、主要宿泊施設、主要交通機関に対し、施設の利用実態を把握するためのアンケート調査を実施。

#### (3) 観光客数及び観光消費額の推計

### 2-2. 定義

#### (1) 平成 16・18 年度

台東区外から区内への来訪者が対象で観光目的の来訪者を狭義の観光客、それに買物目的の来訪者を含めたものを広義の観光客とした。

博物館、演芸場など主要観光施設来訪者は全て観光客

開催される主要なイベントへの来訪者は全て観光客

主要宿泊施設の宿泊客で当事者の申告が観光の場合は全て観光客

上野地区・浅草地区へ来訪する買物客は広義の観光客

## 2-3. 推計の方法

### (1) 平成 16・18 年度

上記 については、アンケート調査結果を基礎に推計した。

については、公表データを用いて推計した。

については、「平成 14 年度アメ横を中心とする上野地区商店街来街歩行者通行量の実測調査」結果から推計した。

## 2-4. 主な調査結果

### (1) 平成 16 年度

年間観光客数：「広義<sup>1</sup>」3,306 万人（日帰り 3,282 万人宿泊 24 万人）

「狭義<sup>2</sup>」2,286 万人（日帰り 2,264 万人宿泊 23 万人）

外国人観光客数：「広義」3.4 万人

年間観光消費額：「広義」2,000 億円、「狭義」1,293 億円

### (2) 平成 18 年度

年間観光客数：「広義」3,402 万人（日帰り 3,385 万人宿泊 17 万人）

「狭義」2,325 万人（日帰り 2,310 万人宿泊 15 万人）

外国人観光客数：「広義」56.5 万人

年間観光消費額：「広義」2,819 億円、「狭義」1,640 億円

## 3. 平成 20 年度調査内容

### 3-1. 調査期間

平成 20 年 1 月から 12 月までの 1 年間

### 3-2. 調査方法

#### (1) 平常時の観光客数

通行人カウント調査：

上野（2 地点）、浅草（4 地点）、谷中、浅草橋の 4 か所 8 地点の通行人カウントによる動向調査を四半期毎に実施した。

調査結果は表 1-1-6a/1-1-6b に掲載した。

観光客受入施設へのアンケート調査：

平成 16・18 年度調査で調査協力のあった文化観光施設にアンケート調査を実施し、地区別、月別に集計をした。（表 1-1-6c～6f）

\* 上野公園地区：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都美術館、旧東京音楽学校奏楽堂、上野動物園、上野の森美術館、黒田記念館、芸大美術館、芸大奏楽堂、

<sup>1</sup> 「広義」は観光客 + 買い物客の数値、「狭義」は観光客のみの数値

<sup>2</sup> 「広義」は観光客 + 買い物客の数値、「狭義」は観光客のみの数値

国際子ども図書館、東京文化会館、日本芸術院、

以上 13 施設中有効回答 13 施設

\* 上野広小路地区：下町風俗資料館、旧岩崎邸庭園、横山大観記念館、

以上 5 施設中有効回答 3 施設

\* 谷中・根岸地区：朝倉彫塑館、大名時計博物館、ねぎし三平堂、書道博物館、  
子規庵、一葉記念館、

以上 7 施設中有効回答 6 施設

\* 浅草地区：浅草演芸ホール、江戸下町伝統工芸館、花やしき遊園地、木馬館/木馬亭、

浅草公会堂、太鼓館、テプコ浅草館、池波正太郎記念文庫、

エース世界のカバン館、皮革産業資料館、かわとはきものギャラリー、

日本文具資料館、以上 15 施設中有効回答 12 施設

宿泊施設の宿泊者数調査：

台東区ホテル旅館協会加盟宿泊施設へ訪問しアンケート調査を実施した。

地区別、月別計で作表（表 1-1-6g～6h）

\* 台東区ホテル旅館協会加盟施設を対象に調査

上野地区（同協会上野支部）：29 施設中有効回答は 19 施設

浅草地区（同協会浅草支部）：32 施設中有効回答は 24 施設

鉄道駅等乗降客数調査：

ゲートウェイとなる駅等において、詳細な乗降客数を調査した。

a. JR 東日本：上野駅、御徒町駅

b. 東京メトロ：銀座線・上野駅、上野広小路駅、浅草駅、日比谷線・  
仲御徒町駅、上野駅、三ノ輪駅、入谷駅

c. つくばエクスプレス：浅草駅、新御徒町駅

d. 都営地下鉄：浅草線・浅草駅、浅草橋駅、蔵前駅、大江戸線・  
新御徒町駅

e. 東武鉄道：浅草駅

f. 京成電鉄：上野駅

g. 東京都都観光汽船：浅草駅

## (2) イベント時の観光客数

代表的（寺社祭事を含む）で、区外からの来訪者が比較的多いと思われるイベントに着目し、主催者発表のデータを入手できたイベント参加者数を基本に推計した。

### 3-3. 調査体制(到着地と出発地)

一般的に来訪者のニーズを把握するための調査は、地区内への来訪者に聞き取り調査をしている。この方法は回答者が事実認定を行う際に、「自己の選択対象を正当化」する傾向の偏りが発生して精度が安定し難い。今回はこの課題を補足する視点から、移動(旅行)に出発する側を(出)発地とし、到着した観光地区内を(到)着地とし、両方向から調査をした。

着地側では、主に来訪者の行動パターンに着目した調査を首都大学東京が実施し、発地側からは、台東区内の観光資源に対するイメージやニーズの調査を東洋大学が実施した。

### 3-4. 用語の定義

観光政策審議会の答申(答申第39号、1995年6月2日)では、観光の定義を「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」としている。すなわち、非日常的に訪問する参拝客や買物客もこの範疇に入る。

他方、日帰り観光の定義を観光庁ではUNWTOの統一基準である「出掛けた先での活動内容に関わらず、日常生活圏を離れたところへの日帰りの旅行で、目安として片道の移動距離が80km以上又は所要時間(移動時間と滞在時間の合計)が8時間以上の場合を「日帰り旅行」とし、通勤や通学、転居のための片道移動、出張・業務旅行を除く」としている。この定義は全国や都道府県を単位としたもので、生活圏と一体化し、異なる個性が集まる台東区においては地区の特性を的確に把握し分析するための手法、定義を別途考える必要がある。したがって、本調査では観光地区振興の観点から、観光行動の定義を「広義」「狭義」とした区分をしないで「ホスピタリティ産業に貢献するすべての非日常的行為」と捉え、買い物、食事、そして仕事のついでの「ぶらり寄り道」は仕事兼観光などと広く捉えた。

この様な地区の特性を分析に反映させ、滞在時間や来訪地からの距離に縛られることなく、回答者の「実際の行動」に着目して分析した。

### 3-5. 回答者の行動をベースにした来訪目的の判定

台東区の平成16・18年度のアンケート調査では、「来訪目的欄」に「観光目的」とマークした回答者を観光客としてカウントしていた。この方法は自分の行動が観光であることを正確に認知している回答者に対しては調査精度を期待できるが、一般的には日帰りの来訪者が博物館見学や芸術鑑賞、神社仏閣の参拝などを目的とした場合、自らの行動が観光行動とは認知しない場合が多い。

そこで今回の調査では、回答者の来訪目的が「観光」か「非観光」もしくは「それ以外」の判定を回答者自身の認知に委ねることなく、回答者の行動を調査員が確認し来訪目的を認定する方法とした。

#### 4. 外国人観光客

我が国における外国人来日数は、JNTO（日本政府観光局）などが日本出入国時に来訪者調査を実施しているが、この調査データを本区の様な特定地区が限定的に外国人来訪者数（率）の推計に応用することは課題が多い。

他方、地区内宿泊者の中から外国人来訪者数を抽出・推計する手法もあるが、本区のように都会型観光地区で、かつ日帰り来訪者の多い地区では調査精度に課題が残る。

そこで、今回区内で最も外国人来訪者が多いと推定される浅草寺境内で、かつ、来訪者の動線が一つになる可能性の高い宝蔵門前での調査を浅草寺の協力を得て実施した。

##### 4-1. 調査の実際

###### (1) 調査概要

外国人の通行量をインタビュー方式でカウント調査。

- \* 調査場所：浅草寺、宝蔵門前で本堂から雷門方向を調査
- \* 調査日：平成21年2月13日（金）曇り、日中気温17
- \* 調査時間：9時から17時

###### (2) 出発国「識別方法」

\* 中国人留学生、韓国人留学生に目視による識別後、第一声を掛け、その後、対象者に直接聞き取り調査を行った。

